

アユの資源状況と増殖対策等について

1. 人工河川の放流状況

(1) 安曇川人工河川（計画放流量 18 トン）

- ・ 県内養殖業者が産卵直前まで育てた親アユを放流。
- ・ 18 トンの親アユのうち、概ね 8 トン分を 9 月（前期）に、10 トン分を 10 月（後期）にふ化させる計画。
- ・ 8 月 27 日から 8 月 30 日に前期分の 8.4 トンを放流。
- ・ 9 月 8 日から 9 月 17 日に後期分 9.6 トンを放流。（うち、1.8 トンは姉川人工河川に振替放流）。
- ・ 平均体重 30 g（体長 12 cm）、60 万尾。
- ・ 産卵は 9 月 2 日から、ふ化仔魚の流下は 9 月 8 日から確認。

(2) 姉川人工河川（計画放流量 4 トン）

- ・ 姉川に遡上する天然親魚を採捕し、4 トンを放流する計画であったが、遡上が少なく、9 月 25 日までに採捕した 0.16 トンを放流して終了。
- ・ 安曇川人工河川に放流予定の養成親魚のうち 1.8 トンを姉川に振替放流。

2. 天然河川の産卵状況（主要 11 河川）

- ・ 第 2 次調査（9 月 13～19 日）、第 3 次調査（9 月 26～28 日）を実施。
- ・ 第 2 次調査で 8.4 億粒、第 3 次調査で 3.8 億粒の産卵を確認。
- ・ 第 1 次調査からの産卵量累計は 12.3 億粒。
- ・ 第 2 次調査では、台風 21 号による増水が長引き、姉川と安曇川の調査可能範囲が限られたため、実際の産卵量より過小評価になっていると推察。

単位：億粒

調査次	8月下	9月中	9月下	10月中	10月下	11月上	計
	1次	2次	3次	4次	5次	6次	
平年値	0.1	27.0	35.4	19.3	0.3	0.0	100.5
H30	0.1	8.4	3.8				12.3
H29	0.0	0.1	2.4	0.2	－	0.0	2.7

3. 今後の調査等

(1) 天然河川の産卵調査

- ・ 2 週間おきに 11 月上旬の第 6 次調査まで実施し、総産卵量を把握。

(2) 人工河川の仔アユ流下量調査

- ・ 10 月下旬までに日ごとの流下数と期間全体の総流下数を把握。

(3) 湖中仔稚アユ分布調査

- ・ 10 月から 12 月にかけて曳き網による調査を実施し、仔稚アユの分布、成長等を把握。

4. 今夏の高温の影響について

- ・漁業者からは琵琶湖漁業では高温の影響は特にないとの見解。
- ・アユ産卵調査では、第1次調査の8月下旬では河川水温が高めで推移。
- ・9月の台風、その後の前線による降雨により河川水温は平年並みに低下し、9月中旬の第2次産卵調査では河川水量、水温ともに産卵環境としては良好。

河川名	水温(℃)		流量(立方メートル/秒)	
	8月28～30日	9月13～19日	8月28～30日	9月13～19日
安曇川北流	25.4	20.2	3.89	12.61
安曇川南流	26.1	20.7	1.40	4.88
石田川	25.1	19.9	0.64	3.86
知内川	21.8	21.4	0.73	2.62
姉川	27.2	21.6	0.86	欠測(増水)

(※水温 25 度以上ではアユはほとんど産卵しない)

5. 7月豪雨の影響について

- ・豪雨による河川の出水に伴い、各河川において、アユの大量遡上を確認。
- ・出水によりアユが沿岸や河川に移動することで、一時的にエリやヤナでの漁獲が増加。
- ・豪雨直後に実施したアユ魚群調査では魚群数が7月に一時的に減少したが、8月には回復。(図1、図2)。
- ・7月の魚群数の減少は、豪雨後の増水で、魚群が分散したことや、河川の出水に誘引され、接岸したり河川に遡上したことが原因と推定。
- ・8月の魚群数の増加は、接岸した魚群が沖合へ移動したり、分散したアユが魚群としてまとまったためと推定。

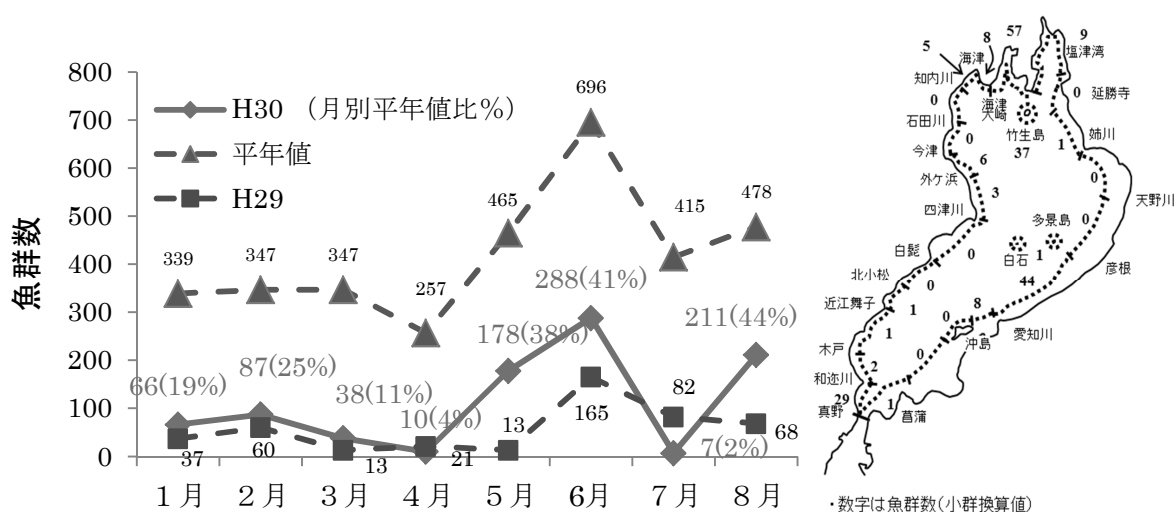


図1 平成30年周回コース魚群数の推移

平年値：過去10年間のうち最大・最小を除く平均値

図2 8月周回コース魚群調査結果